

図書館と市の発達障害支援センターとの 連携について

高橋宏美

相模原市役所（前相模原市立図書館）

1 相模原市立図書館の医療・健康情報サービス

市内には3図書館と1分館があり、市立図書館では、平成22年より医療・健康情報の特集展示をテーマに関連した市の関係課と連携して行っている。

2 発達障害支援センターとの連携の過程と準備

毎年4月2日の「世界自閉症啓発デー」と4月2日から8日の「発達障害啓発週間」に関連して、広く市民へ発達障害について啓発したいとのことで、市の発達障害支援センターから連携の依頼があった。約2ヶ月間で、他館の先行事例についての情報収集・具体的な連携内容の打ち合わせ・ブックリストや展示物の作成等を行った。

3 実施内容

平成25年3月1日から4月7日までの約1ヶ月間、市内3図書館で特集展示コーナーを設置し、関連図書・体験グッズの展示とブックリスト、関連パンフレット、チラシの配布を行った。また、図書貸出時に挟んでいる返却期限票も、期間中は発達障害啓発週間の文言が入ったものを使用した。

3月24日に行われた発達障害支援センター主催の発達障害啓発講演会では、会場入り口で関連図書の展示とブックリストの配布を行い、講演終了後に司書が絵本（「おこだでませんように」くすのきしげのり著 小学館 2008）の読み聞かせを行った。

4 市立図書館特集展示及び講演会場の様子

特集展示コーナーでは来館者が体験グッズを手にとっている様子であった。ブックリストは市立図書館と講演会場だけで約200部、療育相談や発達障害支援センター等相談先機関を紹介するリーフレットも来館者の目を引き、予定配布部数が終了した。

講演会（参加者数180名）では、休憩時間や終了後に関連図書を手に取る人の姿も多くみられた。読み聞かせについてのアンケートは、回答者98人中89人が「良かった」とあり、感動した、泣けた、考えさせられたという感想があった。

5 連携の感想と今後の展望

ブックリストの配布状況等からも「発達障害」について広く市民に知ってもらうきっかけの一つになったのではないかと思われる。また、読み聞かせ時の会場の反応から本が人に働きかけることを強く感じた。発達障害支援センターからは、再度連携を行いたいという話も頂いており、今後も協力して情報提供を行えればと考えている。